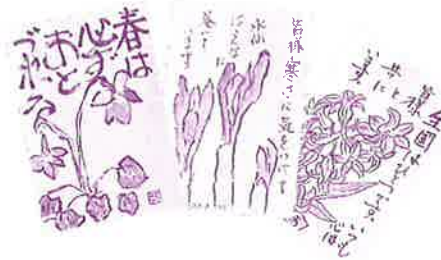


# 日本母親大会(新潟)で 語りあいましょう

**特別企画** 国際協同組合年と  
らいてうの「協同」へのねがい  
日時 8月25日(土) 12時30分より  
会場 新潟市 ホテル日航会議室(3F 孔雀)  
お話 米田佐代子さん & 高橋彦芳さん(元栄村村長)



今年もらいてうの会は実行委員会に参加「大震災から1年、89年前に関東大震災を経験した母親・らいてうが、考えたこと」をテーマに特別企画を開催します。今年「国際協同組合年」です。生協や医療生協、農協、漁協などのあゆみや丸岡秀子・宮沢賢治も登場、最新版「満月の夜の森で



発行  
平塚らいてうの会  
〒112-0002  
東京都文京区  
小石川  
5-10-20-5F  
TEL・FAX  
03-3818-8626

—まだ知らないらいてうに出会う旅—(自費出版)を出した米田佐代子さんの思いがけない「新らいてう物語」をお楽しみに。ゲストには、豪雪地帯で大震災に会いながら「一人の死者もださなかった」長野県栄村の元村長・高橋彦芳さん(写真)をお招きし、「地域から発信する協同」について語っていただきます。栄村は「絵手紙の村」です。震災後全国から届いた励ましの絵手紙の展示もします。

## 「学び」と「協同」の年に

### —第13回総会報告

今年の総会は4月21日に東京で開催されました。昨年は『青鞥』創刊百周年記念行事にとりくみ、多くの方からのご寄付や長野県の助成金も得て、9月4日らいてうの家での記念祝祭を成功させたのはじめ、『らいてうの会紀要』特別号の刊行や、小宮山量平さんの講演会、そして恒例となった「森のめぐみ講座」や「子ども祭り」「昔語りの会」、新企画として「蚕都上田のまちあるき」や「大笹街道めぐり」など、地域と結びついた活動が成果を収めたことが報告されました。

今年はその成果を土台にしっかり学習し、一人ひとりが「自分で考え、行動する」力を身に着け

るため「学びの年」にしようと話し合い、上田・真田地域では、らいてうの記録映画上映も合わせて5回、東京でも3回、「国際協同組合年」にちなんで「らいてうの協同への思いを学ぶ」らいてう講座を行うことに。8月の日本母親大会でも、特別企画に取り組むことになりました。

会の財政は赤字続きで、「家」の訪問者も減少、このままでは事務局体制の維持も困難ですが、財政問題を検討してきたプロジェクトからは、「常駐事務局体制維持は会活動に不可欠」「大口寄付会員」「団体の訪問拡大」などの提案があり、今後1年かけて検討することになりました。また、2016年「家」オープン10周年をめざして活動の総括と、これからの会のあり方を検討する提案も出され、承認されました。

困難を背負いながらも、上田から推薦された新理事を合わせて現理事は全員留任、その後の理事会で会長、副会長、事務局長も全員再任され、この一年を乗り切ることになりました。

### 今年度役員

会長・米田佐代子、副会長・折井美耶子、木村康子、中寫邦、堀江ゆり、事務局長・小林明子、理事・飯村しのぶ、井上美穂子、植草充代、小野塚歩、木村見江、沓掛美知子(新)、小池道子、小林典子、斎藤慶子、坂口久美子、佐藤実喜子、杉山洋子、関町好子、富松裕子、花岡静枝、藤原美津子、三留弥生、山田繁子、若尾伸子(新)、監事・小島妙子、佐久間由美子



## らいてう講座のおさそい — 『青鞥』100年から次の100年へ テーマ「女たちが作る協同の世界」

今年国連「国際協同組合年」です。スローガンは「協同組合がよりよい社会を築きあげます」。「らいてうの家」の標識も「平和・協同・自然のひろば」です。協同組合の思想は「民主的運営・経済的参加・自治と自立・教育・訓練・広報・コミュニティへの関与」の7原則とこのこと。自ら消費組合「我等の家」を設立した、らいてうさんの暮らしにねざしたところごしを受け継ぎ、あらたな「協同の世界」を耕そうと企画した「ともに学ぶ連続講座」です。講師は米田佐代子館長が全力投球します。ぜひご参加ください。

〈上田&東京開催〉

- 第1回 6月16日(土) 午後1時半から 場所・「らいてうの家」  
7月21日(土) 午後1時半から 場所・東京・飯田橋—セントラルプラザ  
テーマ 89年前の関東大震災、そのとき母親らいてうは—ここから始まる「協同思想」
- 第2回 7月18日(水) 午後1時半から 場所・真田林業会館  
9月21日(金) 午後6時半～ 東京・会場未定  
テーマ 農協も漁協も生協も—丸岡秀子も宮沢賢治もらいてうも夢見た「協同自治」とは？
- 第3回 8月22日(水) 午後1時半から 場所・真田林業会館  
テーマ 「母性」と「平和」—「女たちがつくる平和世界」のあゆみ  
11月17日(土) 午後1時～ 東京・会場未定  
テーマ 「母性主義」と「平和」—女たちは、なぜ平和と協同をめざすのか
- 第4回 10月17日(水) 午後1時半から 場所・上田ぶらざゆう  
テーマ なぜ「女性はいつも協同」をめざすのか—「自然」を生きるということ
- 第5回 11月17日(土) 午後1時半から 場所・上田ぶらざゆう  
「元始女性は太陽であった」記録映画「平塚らいてうの生涯」鑑賞会(会場未定)

### 森のめぐみ講座Ⅱ

#### 笹刈りと大笹街道の歴史を訪ねる集い

- 9月1日(土) 10時～4時(参加費無料)  
らいてうの庭と森の笹刈り、森の学習会
- 9月2日(日) 10時～4時(参加費2500円(予備))  
大笹街道の歴史を訪ねる(バスで移動)先着27名。  
\*両日とも上田駅からの送迎あります。  
\*どちらか1日だけの参加もできます。  
\*宿泊希望の方には手配します。  
●申し込み締切り 7月31日(火)まで。  
平塚らいてうの会へ。案内差し上げます。

### らいてうの家 オープン

2012年度らいてうの家は4月28日にオープン、11月5日まで開館します。当日は地元「ねむの木会」のみなさんによるコーラス、お茶会などでたのしみました。



## 2012年 りいてう忌 らいてうゆかりの地 館山へ

5月19日朝8時30分、五月晴れの東京を出発。東京湾アクアラインを抜けて千葉県館山へ。バスの中での折井美耶子副会長によるミニ学習、到着地でのNPO法人安房文化遺産フォーラムによるお話。館山は太平洋戦争時、東京湾要塞の拠点として館山海軍航空隊の艦上攻撃のパイロット訓練場であったことなどを学びました。

昼食後は再びバスで館山海軍航空隊の実践のたのめ地下要塞「赤山地壕」の見学。その後は、社会から見捨てられた女性たちが一生安心して暮らせる保護施設をと、軍の払い下げ地に設立された「かにた婦人の村」へ。ここは、村の建設時に発見され、映画「赤い鯨と白い蛇」の舞台にもなった地下壕があり、天井には龍のレリーフが残っているところ。壕を出て坂道を上りきると「臆従



(上)参加者のみなさん  
(下)「臆従軍慰安婦」の碑



軍慰安婦」の碑にでる。戦時中、人間として扱われない日々を送った一女性の訴えを受け止め、村の設立者・深津牧師が一本の檜の柱をたて、いまは石碑となっている。多くの人々はいまだに過去を語らずこの女性も本名ではないとのことだ。最後に、現在一基のみ残っている掩体壕(敵機から戦闘機を守るための格納庫)を番外編として見学。夕日を受け、穏やかに輝く「鏡が浦」、かつてらいてうがこの海を見て、心身の疲れを回復させたのだと納得する。母性の尊重と、平和を願ったのだと納得する。胸に帰路につきました。総勢28名。初めて参加の方も含め、30代から70代の方たちが「大変よかったです」と感想を寄せてくださいました。旅行社のMさんがサービス添乗で、現地との交渉など、丁寧してくださったことも満足の要因でした。(植草 充代)

### 森のめぐみ講座1

#### らいてうの庭は 山野草がいっぱい

6月3日、さわやかな天気にも恵まれた新緑のあずまや高原のらいてうの庭に、30人余が集いました。自然観察指導員の西牧美二さんを講師に、菅平の木村見江さんの案内で、らいてうの庭に芽吹いた山野草を見つけて、かわいらしい木の札を立てました。スマリの濃い紫、点々と広がる小さな小さなフデリンドウの青い花、地味なツクバネソウなどが目を惹きましたが、そのほかに



(上)草花や樹木をしらべ、名札をたてました。  
(下)お昼は庭でとれた山菜でんぷらと岩魚で大満足。

も驚くほど多種類の芽生えがみられ、これからの季節の楽しみを予感させてくれました。お昼は、庭で採ったばかりの独活などの山野草の天ぷら、西牧さんの友人お二人がその場で焼いてくださった、溪流釣りの岩魚を堪能しました。午後は、お天気が怪しくなったので、近くのペニナイチヤクソウの群生地などをめぐり、早めに終了しました。これからは、アヤメ、苧環、キツリフネ、ゲンバイヅルなどの花が咲いてくることでしょう。らいてうの庭も3年目、タンポポなど外来種を取り除き、熊笹を刈るなどの作業によって生まれた自生の山野草の成長の豊かさが実感されました。一人では気付かない自然からのメッセージをみんなで見つける楽しさを知る、充実した一日となり、9月の笹刈りの集いでの出会いに期待がふくらみました。(三留 弥生)



富本一枝と山の木文庫・40年



『青鞥』の尾

竹紅吉こと富本  
一枝は、戦後す  
ぐ「少年少女図  
書出版・山の木  
書店」を起業し  
た。一枝が親し

くしていた作家の大谷藤子の郷里が秩父にあり、藤子の親戚の「山の木」を売った代金を資金として仰いだことからの命名だった。

戦後の荒廃した世相の中で、子どもたちに良質な本を与えたいという一枝の純粋な願いから出発し、企画や編集は一枝が、経理などの事務方は長女の陽が担当した。1948年のはじめのころと

思われる。  
吉野源三郎『人間の尊さを守ろう』、壺井栄『柿本のある家』（第1回児童文学賞）など優れた本を出版したが、まだ食べることに精いっぱいの時、かなり贅沢で高価な児童書は売れずに、倒産した。そのご、一枝は『暮らしの手帖』に『お母さんが読んで聞かせるお話』を長年連載し続けた。  
1966年に一枝が亡くなった後、残されたたぐさんの児童向けの本を生かしたい、と孫岱助(陽の長男)の妻京子、長男壮吉の妻裕子を中心に、近所のお母さんたちが集まって文庫づくりが始まった。らいてうの娘曙生から友人の陽にプレハブが寄贈され、そこを会場に「山の木文庫」が開館

したのは、1973年の5月4日だった。

以来40年、中心の京子の努力とお母さんたちの協力、そしてなにより子どもたちに愛されて文庫は今も続いている。今年6月3日、東京・成城ホールでお祝いの会が盛大にひらかれた。

開館当初からまだ幼児だった私の息子たちも文庫に通い、当時読み聞かせをしてくれていた故・山田よし恵に可愛がられたが、なんとその息子の子どもが、まだ零歳だが最近文庫に入れてもらった。親子二代の文庫通いが始まったのである。

(折井美耶子)

「紀要第5号」―6月発行

平塚らいてうや富本一枝について、ご令孫(奥村直史氏、海藤隆吉氏)が寄稿くださり、特集となりました。持病の自己管理に徹し、玄米菜食を基本としていたらいてう。一枝から見たらいてうの印象、それぞれが同時期に見た「夢」など、二人の深い友情と人間的な魅力を深めるものとなりました。資料紹介では、『青鞥社事務日誌』、『青鞥』創刊50周年当時の「らいてうインタビュー」テープの聞き起こし、『青鞥』52冊の原本調査の中間報告など、『青鞥』創刊にむけての動きや、無期休刊に至った経緯がわかる貴重な資料を収めています。(A4判 80ページ700円)

【事務局日誌】

- 4月6日 紀要第5号編集委員会
- 4月10日 2011年度会計監査を受ける
- 4月16日 「らいてうの家」大掃除

4月17〜18日 展示準備

4月21日 第13回通常総会開催(於全労連会館)

4月24日 認定NPO法人セミナーに参加

4月28日 「らいてうの家」オープン

5月7日 紀要第5号編集委員会

5月10日 「平塚らいてうの会」と「家」の未来を考えるプロジェクト会議

5月15日 葉草園開きに出席 「らいてうの家」

5月18日 拡大運営委員会(於真田林業会館)

5月18日 第2回理事会開催

5月19日 2012年らいてう忌「南房総・館山

5月24日 日帰りの旅」バスツアー

5月24日 紀要第5号編集委員会

6月2日 あずまや高原自治会総会に出席

6月3日 森の講座1「あずまや高原・山野草の

集い」

6月16日 第1回らいてう講座「関東大震災、その

るとき母親らいてうは―ここから始まる「協同思想」(於「らいてうの家」)

【訃報】 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

小宮山量平さん \*昨年『青鞥』創刊百周年記念行事で講演された小宮山量平さんが、4月13日95歳で逝去されました。「おもしろかったね。ありがとう」と言い残されたそうです。

池辺節子さん \*4月6日93歳で逝去された池辺さんは、らいてう没後の1972年、神戸で「平塚らいてうをしのぶ展」を開催されました。池辺さん寄贈の博史作・帯留めは「家」に展示してあります。